

・チンプイ

チンプイは、マール星からやってきたネズミっぽい宇宙人である。マール星のルルフ殿下のお妃として地球の春日エリが選ばれ、それを説得するためにやってきたのだ。…というのをきっかけとして、チンプイは春日家に居候することとなる。

チンプイはかわいい。顔文字にすると(・ω・)みたいな目と口で、エリさまの体をはったボケを傍観する姿からは、なんともいえない白けイズムを堪能できる。その愛嬌のある小柄な姿は老若男女に非常に人気で、例えば川崎市藤子・F・不二雄ミュージアムで売られているチンプイの等身大ぬいぐるみなんかはかわいいのですごく欲しいです。

作品としての『チンプイ』の面白さは、何ととってもギャグのオンパレードにある。エリさまのみならずママまでもがボケ役で、ツッコミが追いつかないのは常である。マール星から来る様々な宇宙人もこれまた個性的で、エリさまといい勝負だ。そして、作品自体が『ドラえもん』のセルフパロディにもなっていて、チンプイはネコが苦手だったり、スネ美というキャラクターが居たりする。この点から楽しむのもまた一興。

筆者の一番のおすすめの話は、藤子・F・不二雄大全集『チンプイ』一巻の「エリさま初レコーディング」である。抱腹絶倒間違いなし。

・左江内氏

藤子F作品の中では珍しい、中年サラリーマンを主人公とした連載モノである『中年スーパーマン左江内氏』の主人公である左江内氏。彼は“最大公約数的常識化・力を持って大それた悪事のできぬ小心さ・ちょっと見パツとしない目立たなさ”を見込まれスーパーマンに選ばれたのであった。

基本的には『パーマン』『エスパー魔美』の延長線上にある正義モノのストーリーだが、その題材はヤクザ飲み屋、ポルノ、教育問題、出世騒動などなど中年らしさ満点である。このようにストーリーが割と重めである一方で、左江内氏の小市民的ものの考え方や行動がほのぼのとしていて存分に癒される。何より、中年男性がスーパーマンの恰好をしているその姿自体がギャグにもなっていて、妻との天井ギャグは秀逸である。

連載の終盤、スーパーマンがいかに無力かを思い知り、落ち込む左江内氏の前に、とあるヒーローが颯爽と登場する。藤子Fファンにはたまらない展開。これを読まない手はない。